

## ホタルの学習がスタート、観察会も実施しました

校長 濱田康助

6月2日に、3年生は環境学習のスタートとして、西武庫公園ホタルの会の方を講師として、ゲンジボタルの学習会を行いました。

ゲンジボタルの一生や生態等について、写真や実物を使いながら、わかりやすくご指導いただき、子どもたちが飼育を続けている貝（カワニナ）との関連なども教わりました。子どもたちは、講師の方にいろいろな質問をするなどし、非常に興味を持った様子でした。

昨夜（6/3）は、ホタルの学習に引き続いて、西武庫公園の西側を流れる水路でホタルの観察会も実施しました。

例年、ホタルが観察できる周辺は、武庫川堤防の改修工事が行われたために、今年はホタルが出ないのではと心配されていました。また、昨日は夕刻に雨が降ったりもしたため、観察会自体が行えるか心配しました。幸いにも集合時刻（19:50）には雨もあがり実施することができました。

3年生のほぼ90%の児童が参加、保護者の方々も100名を超すほど多数ご参加いただき、本当に嬉しく思いました。約1時間弱の時間でしたが、ホタルが光を放ちながら優雅に舞う姿を観察することができました。

子どもたちは、ホタルを見つけるたびに、大きな歓声を上げるなど、全員がしっかりとホタルを楽しみました。

工業都市尼崎でも季節の風物詩として、優雅に光り舞うホタルが楽しめる。そんな環境を守り残す取組が、これからのこの地域の担い手である本校児童にいくらかでも根付いてくれることを願っています。

一度破壊された自然環境は、放置しておいてももどに戻ることはありません。便利な生活になったことで自然に負荷をかけていることは事実だと思います。でも、昔のような不便な生活に戻ろうとするのはナンセンスな話です。このことは多くの方に同感していただけるものと思っています。

人間の生活や経済活動の営みは、無節操に行われるものではあってはならないと私は思っています。ですから、少なくとも自然環境の現状を維持しながら、さらに私たちの今の暮らしを守るためには、暮らし方に一定の制限や我慢を求められることも仕方のないことでしょう。

私たちの取組で不必要や無駄を最小限にすること、科学技術の進歩や発展で、効率を高め最大の効果を得られるようになること等々、今後に期待することがたくさんあります。

本校の子どもたちが、ホタルが身近に飛び交う町に自分たちが暮らしていることを喜びと感じたり、西武庫公園のホタルについて（どうしてホタルがいるの、ホタルのためにどんな活動が行われているのかなど）知ること、自分のこれからの暮らし方や行動をしっかりと考えられ、判断できるようになってほしいと願っています。



(写真中央の点がホタルです)